

RICOH

Visual Communication

デジタルサイネージ

お客様導入事例



全従業員への効果的な情報伝達に、デジタルサイネージを活用。

工場の従業員が、パソコンがなくても、常に最新情報を確認できる仕組みを構築し、安心・安全で働きやすい職場の実現に貢献。

株式会社ニッコーインテック様

■ご導入機種：リコーデジタルサイネージクラウドサービス
および Admint Stick* × 3

■ご導入拠点：株式会社ニッコーインテック

Company Profile

■URL：www.nicco-intecc.jp/

*デジタルクルーズ社製



株式会社ニッコーインテック
取締役 管理部責任者
谷口 陽子 様

自動車部品を中心に、精密プラスチック部品の金型設計・制作および成形・組立をトータルに行われている株式会社ニッコーインテック様。自動車業界の改革を背景に、生産量が増加し、社員の採用も進める中、情報共有の重要性を改めて感じられていました。パソコンをもたない従業員にも、タイムリーな情報を的確に伝える方法、社内のコミュニケーションを活性化するツールを探していた時に、リコーのデジタルサイネージを見て「これしかない！」と直感されたそうです。事務所と2つの工場に1台ずつ、合計3台のデジタルサイネージを導入。従業員がそれぞれの職場から、常に最新情報を確認できる環境を構築されています。職場の安全に関する情報をはじめ、業務連絡、自動車業界の最新動向、さらに、健康に役立つ情報など、バラエティーに富んだコンテンツを配信。充実した情報展開と、情報共有の促進により、安心・安全で、働きやすい職場環境の構築に役立てられています。

導入前の課題

- 工場の生産量の増加、社員の増加により、情報共有の重要性が高まっていた。
- パソコンをもたない従業員もいる中で、最新情報をより効果的に伝える方法を探していた。
- 幅広い情報展開により、社内のコミュニケーションを活性化したいと考えていた。

導入後の効果

- ❗ 全従業員がそれぞれの職場から、常に最新情報を確認できるようになった。
- ❗ デジタルサイネージのコンテンツをきっかけに、部門を超えたコミュニケーションが生まれている。
- ❗ 情報共有の促進が、安心・安全で、働きやすい職場環境の構築につながっている。



イラストを使って分かりやすく伝えることで、職場の安心・安全を徹底しています。



各職場のモニターから、品質目標を配信することで、全社への周知を図っています。

社内の情報共有を促進するツールとして、デジタルサイネージを導入された背景を教えてください。

自動車業界の変革を背景に、工場の生産量、従業員数ともに増加しています。それに伴い、伝達すべき情報量が多様化していく中で、社内の情報共有の仕組みを改善したいと考えていました。特に、パソコンをもたない従業員に対して、タイムリーな情報を、いかに効果的に伝えるかが、鍵になると考えていました。当社のニーズと職場環境に適したツールを探していたところ、興味をもったのが、リコーのデジタルサイネージです。リコーの営業所で実機を見て、「これしかない!」と直感しました。

実機をご覧になり、どのような点を評価いただいたのでしょうか。

実機を見て、何よりも、紙媒体にはない訴求力の高さを実感しました。これなら、工場内に置いて自然と注目してもらえる存在感がありますし、パソコンをもたない従業員にも、全員に効果的に情報が届けられるだろうと思いました。また、工場で運用することを考えると、クラウド型であることは、非常に大きなメリットになります。クラウド型なら、事務所から各工場へ、一括してタイムリーな情報配信ができますので、当社のように、複数の工場をもつ会社にとって、最適な商品だと思いました。さらに、リコー商品への信頼性、充実したアフターサポートへの安心感もあって、導入を決定しました。

どのように運用されていますか？

事務所に1台、成形工場と金型工場に1台ずつ、いずれも従業員が必ず通る出入口付近にモニターを設置し、管理部から配信した内容が、全員に行き渡るようにしています。コンテンツは週に1・2点を入れ替えながら、常時15~20種類を配信しています。そのほとんどは、PowerPoint®2013で作成したオリジナルのコンテンツです。静止画だけではなく、動きをつけたプレゼンテーションも、PowerPoint®2013でmp4の動画に変換して、デジタルサイネージのコンテンツとして配信しています。動画を取り込んだり、イラストを盛り込んだり、訴求力のあるコンテンツを手軽に作成できるので、操作性にはとても満足しています。また、ゼロからコンテンツを作らなくても、写真やテキストを入れ替えて使う、無料テンプレートがリコーデジタルサイネージには充実しているのも便利です。オリジナルコンテンツがまだ少なかった導入当初は、特に重宝しました。業種ごとに豊富な種類があり、例えば、工場内の安全意識を高める5S活動は、現在も、既存のテンプレートをアレンジして使用しています。

具体的なコンテンツの内容を教えてください。

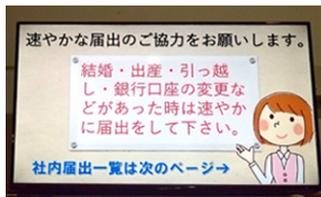
経営理念や安全喚起をはじめ、タイムリーな業務連絡、自動車業界の最新動向、さらに、社内のコミュニケーションを活性化することを目的に、新入社員の紹介や、社内行事の広報も、デジタルサイネージから配信しています。多岐にわたるコンテンツの中で、特にユニークなのは、「YAMA'S Kitchen」です。デジタルサイネージの運用を担当している「山口」によるコンテンツで、旬の食材を使った美味しく健康的なレシピを、写真や食材の特徴とともに紹介しています。このように、仕事の合間に見てちょっと楽しくなるような内容を織り交ぜたり、暮らしに役立つ天気予報やニュースなど、デイリーコンテンツの配信機能を活用することで、モニターに注目してもらえるようにしています。

導入後の変化、効果はいかがでしたか？

パソコンをもたない従業員も、それぞれの職場から、最新情報を確認できる環境を構築することができました。管理職がメールを確認し、現場の従業員と朝礼などで共有している内容も、訴求力のある大画面から、繰り返し配信することで、さらなる周知徹底につながっています。その結果、伝えたいことが届いていなかった、という伝達漏れが、大きく改善されました。従業員へ伝える情報量が、飛躍的に増加したのも大きな変化です。導入前も伝えたい内容はたくさんあったのですが、掲示スペースとの兼ね合いで、優先順位の高い業務連絡などに絞って掲出していました。その点、デジタルサイネージは、スペースを心配することなく、しかも手軽に幅広いコンテンツを配信できるので、情報の量はもちろん、内容もバラエティー豊かになりました。手軽にできるストレッチや健康情報など、デジタルサイネージで配信している内容が共通の話題となっており、従業員同士の部門を超えたコミュニケーションにつながっています。情報を受け取る側だけでなく、発信する側である管理部にも変化がありました。私たち自身も、自然とモニターを見る回数が増え、次はこれも発信したい、来週には更新しようなど、的確な情報伝達への意識が、高まっているように感じます。

今後の展開について教えてください。

デジタルサイネージだからこそできることが、まだまだたくさんあると思います。今後は、従業員の声も取り入れて、配信内容の充実を図っていきたいですね。多様なコンテンツの展開により、安心・安全の追求はもちろん、部門を超えて声を掛け合えるような職場の雰囲気づくりにも、活用していきたいと考えています。



各種手続きの案内も、訴求力のある大画面から、繰り返し配信しています。



旬の食材を使った簡単レシピを紹介する「YAMA'S Kitchen」。



(写真左) 取締役 管理部 責任者 谷口 陽子 様
(写真右) スマート工場 推進担当 山口 晃平 様

リコーデジタルサイネージ 3大選定ポイント

- ①クラウド型であるため、事務所から各工場へ、最新情報の一括配信が可能。
- ②訴求力の高い、動きのあるコンテンツも、Powerpoint®を活用することで、手軽に配信可能。
- ③リコー商品への信頼性、充実したアフターサポートへの安心感。

お客様導入事例をWEBサイトでご紹介しています。

<http://www.ricoh.co.jp/signage/case.html>

リコーのデジタルサイネージ
<http://www.ricoh.co.jp/signage/>



本レポートは、リコーが提供する新しいクラウドサービスである RICOH Clickable Paper サービスに対応しています。スマートフォン/タブレット端末用アプリケーション「RICOH CP Clicker」(無料)をダウンロードし、ページを撮影(クリック)すると、関連情報のあるインターネット上のサイトがご覧いただけます。
www.ricoh.co.jp/software/other/clickablepaper/

RICOH リコージャパン株式会社
imagine. change.

お問い合わせ・ご用命は

<http://www.ricoh.co.jp>